

後1, 2ヵ月の休業を取る女性が多くなったことがわかっている。また、全体的に制度前よりも、休業期間が長くなっている。また、今までは自分の企業で中規模の職場で働く人で対象になる人が増えている。また取る期間が長くなったことが明らかになった。

ファミリーフレンドリーな職場の制度は、1980年代からすでに存在しており、1993年に国レベルで制度化される前に、大企業では育児にも使える休業の制度があり、FMLAはそれらを制度化しただけに過ぎない、という見方もされている。例えば、SmithとBachu(1999)のレビューによると、妊娠中の女性を対象とした研究では1980年では、10人中6人が妊娠中も就労していた。O'Connellの研究によると、1981-84年に出産(ひとりめ)をしたじょせいの65%は妊娠中も就労していた。1961-65年では44%であった。製造業ばかりではなく、サービス業が増加したことにより、就業時間に融通が付き、妊娠していても、働ける可能性がふえたからである。出産後6ヵ月以内に働き始める人、1年以内に働き始める人の割合をいくつかの研究から拾ってみると、1980年代では、妊娠中働いた人の50-60パーセントが出産1年以内に働き始めている。

(4) その他の動き

1993年の家族医療休業法は、ホワイトハウス・早期子ども成育委員会などによっても、子どもにとっての良い効果がみられたと評価されている。しかし、今のままであると、経済的な理由で12週間の休業を取得できない人が多いので、全ての親のニーズを満たすことはしていない。有給の休業制度を設けることで、親の子どもとの関係と仕事との関係を強くする、と述べている(The White House, Office of the Press Secretary Tuesday, November 30, 1999, Remarks by the President on Parental Leave)。

1999年5月20日には、クリントン大統領は「21世紀の家族支援」として、いくつかの提案をしている。子どもの保育のブロックグラントの増加、早期教育資金、保育と発達税クレジット改正、在宅の親のための税クレジット、企業で保育施設をつくるための税クレジット、学童プログラムなど、5年間、合計19百万の増加を計画した。

また、FMLAによる休業は現在従業員50人以上のところだけに義務付けられているのを、25人の職場までに広げる、親であることで差別されないような法律を整備する、最低賃金を5.15から6.15に2年間のうちに上げるなどが揚げられた(President Clinton's Proposal: 21st Century Support for Families)。

FMLAをさらに改善しようという動きもでてきている。1999年11月30日付けで、クリントン大統領は各州に失業保険を使って労働省の規定として、各州が任意で失業保険を利用して有給の育児休暇を与えることができるようにする、という案を出した。クリントン大統領によると、そうすることで、有給の両親休暇がある他国と同格になり、有給の両親休業を試してみる融通性が、家族を強くし、母親父親が家庭と職場のニーズに答えられるようにする一番いい方法だとのことである、また、国の経済状態がよい今であるからこそ、それぞれの州でこの機会を使うことを希望する、と述べている。

(5) 企業でのベネフィット

国家レベルの制度とは別に、雇用者に様々なベネフィットを設置している企業もある。1997年の中・大規模に勤めている人の1割がチャイルドケアがある所に勤めている。職種別にみると、専門・技術職の人は14%、事務・営業は10%、ブルーカラー職では7%であった。

また Family Leave「家族のための休業」を掲げているところに勤めている人は、全体の2%であった。無給の両親休暇のほうは、全職種で93%、専門等で95.6%、そしてブルーカラーで91%であった(Bureau of Labor Statistics, 1997)。

(6) 産休の取得状況

1995年の National Survey of Family Growth の産休を取ったかどうかのデータによると(次ページ表)、出産年齢が高い人のほうが、産休をとっている。30歳以上では、半分近くがとっており、働いていない人を10%も上回っている。出産年度別にみると、80年あるいはそれ以前では5人にひとりだったのが、81-90年では37%、91年から95%と、だんだんと増えている。家族医療休業法が設置されたのは1993年以降なので、91-95年のところにその効果が現れている可能性もあるが、このデータからは判断できない。産休を取る人がだんだんと増えていることは確かである。出産回数でみると、初産で取る人が多い。教育レベルは、高い人のほうが多く取っている。

「働いていたが取っていない」人の割合は属性によってはほとんど変わらない。産休がとれるかどうか、そして、取りやすいかどうかは、妊娠中またはその後、仕事を続けるかどうかに影響するようである。産休を取りにくい場合は、出産前にやめてしまっていることが考えられる。

表 15-44 歳の女性で出産経験ありの人数と一番最近の出産時の産休利用について：

	千人	就労して いない	産休取っ た	取らなかった		
				必要な かった	取れな かった	その他
合計	34958	48.0	37.3	2.3	0.9	11.6
出産年齢						
15-19	3436	71.9	14.8	0.7	0.1	12.5
20-24	10094	52.8	29.8	1.3	1.3	14.9
25-29	11629	44.8	41.1	2.7	0.8	10.5
30-44	9799	38.3	48.3	3.5	0.8	9.1
初産年						
1991/95	13999	43.2	43.5	2.2	0.9	10.3
1981-90	15344	47.4	37.2	2.7	0.8	11.8
1980 以前	5616	61.5	22.0	1.6	0.9	14.0
出産時の婚姻地位						
未婚	6379	58.4	26.8	0.8	1.0	13.0
現在婚姻	26439	44.9	40.3	2.8	0.8	11.1
婚姻歴あり	2140	54.3	31.1	0.8	1.3	12.5
出産回数						
1 人目	10901	35.8	46.9	1.8	1.1	14.4
2 人目	13965	47.7	38.1	2.6	1.0	10.7
3 回目以上	10092	61.5	25.8	2.5	0.4	9.7
調査時の教育レベル						
高卒未満	4961	69.3	16.5	0.7	0.4	12.8
高卒	14295	48.8	36.2	1.6	1.0	12.4
大学在籍経験あり	7967	40.1	44.4	2.6	1.1	11.8
大学卒以上	5929	32.8	52.8	5.6	0.9	7.9
人種・ヒスパニック						
ヒスパニック	4372	57.8	28.9	1.1	0.8	11.4
非ヒスパニック白人	24009	44.7	39.6	3.0	0.9	12.0
非ヒスパニック黒人	5149	53.5	34.5	0.4	1.1	10.6
非ヒスパニックその他	1428	53.7	34.8	1.5	0.6	9.4

出典 Series 23, No. 19 National Center for Health Statistics

III. 国別研究その1 アメリカの保育

1. 保育の担い手

1994年のデータによると、母親が就労している就学前の子どもの5人に1人がデイケアで保育を受けていた。次に多いのが、父親が保育をしているケースで、2割近くになっている。親戚以外が自宅の外（主に家庭保育所が挙げられる）保育しているのは15%である。祖父母が見ているケースは、自宅内外を併せると、20%以上になっている。また、印象的には多いようであるベビー・シッターは、（自宅で親戚以外がそうであると考えられる）6%未満、母親が職場で子どもを見ている割合と同じである。なお、表には示してないが、1993年に比べると、ナーサリーと親戚外による保育が減り、父親とデイケアが増えている。

人種・エスニックグループによる多少の違いが見られる。父親によるケアが多いのは、その他のグループ、ヒスパニックでデイケアを使っている子どもは13%で黒人や白人に比べて10%低くなっていること、白人は祖父母による保育の割合が他グループに比べやや低いことなどが特徴である。

母親が就労している就学前の子どもの主たるケア（1994）人種・エスニック別（%）

	自宅で				自宅外で							
	父親	祖父母	他の親戚	親戚以外	祖父母	親戚	親戚以外	デイケア	ナーサリー	学校活動	就学	母親
白人 7523	19.6	4.9	2.4	5.5	9.2	4.5	15.8	23.3	7.4	0.1	0.6	5.9
黒人 1162	11.0	7.6	5.3	1.5	14.5	8.6	13.3	22.9	10.8	0.2	1.3	2.9
ヒスパニック 1205	16.9	8.0	7.3	5.7	14.4	9.2	15.0	12.8	6.5	0.5	1.5	2.2
その他 398	22.3	11.9	7.0	5.8	7.7	4.4	15.3	11.2	9.5		1.9	3.0
全体 10288	18.5	5.9	3.5	5.1	10.4	5.5	15.4	21.6	7.8	0.2	0.9	5.5

出典：Who's Minding Our Preschoolers? Fall 1994 (update). Issued Nov. 1997. P70-62
Survey of Income and Program Participation 1994.

子どもの年齢別に見ると、祖父母および親類以外の人が見る割合は子どもの年齢が高くなるにしたがい低くなり、逆にナーサリーの割合が高くなる。これはナーサリーの年齢制限にも影響されているのだろう。0歳では、4割くらいが、父親、祖父母、親戚などの家族親族に見てもらっている。

母親が就労している就学前の子どもの主たるケア (1994) : 子どもの年齢別

(百万人)	自宅で				自宅外で							
	父親	祖父母	他の親戚	親戚以外	祖父母	親戚	親戚以外	デイケア	ナーサリー	学校活動	子ども自身	母親
0歳 1738	20.6	7.1	4.2	6.0	11.2	6.6	22.3	17.4	1.8	.	.	6.9
1歳 2085	20.8	6.5	3.0	5.0	13.0	6.1	16.8	22.4	1.9	.	.	4.5
2歳 2201	17.7	5.9	3.9	5.1	12.4	5.1	17.6	22.9	5.2	.	.	4.3
3歳 2088	16.7	5.7	3.3	5.3	9.8	6.2	13.8	21.8	10.3	0.4	.	6.8
4歳 2175	17.0	4.4	3.0	3.4	5.8	4.2	10.7	22.6	19.0	0.4	4.1	5.5

出典：Who's Minding Our Preschoolers? Fall 1994 (update) Issued Nov. 1997 P70-62
Survey of Income and Program Participation 1994.

保育を誰がしているかについて、別の見方をしたのが次の表である。これは、親の就業状況に関わらず、就学前の子どもの保育形態を示している。親のみによって保育されているのは1、2歳では5割以上、3歳では3分の1、4歳では4分の1、5歳では6分の1となっている。親以外が保育している場合の平均保育時間は30時間程度で、年齢による違いが見られない。

就学前の子ども（6歳未満）で親のみによって保育されている%および親以外の保育を受けている子どもの外での保育時間の分布・年齢別（1995）

年齢	子どもの数	親のみによる保育	親以外の保育を受けている子どもの保育時間				(平均時間)
			15時間未満	15-24時間	25-34時間	35時間以上	
1～5歳	21,414,000	41	26	14	13	47	30
1歳	4,158,000	56	19	15	14	52	31
2歳	4,007,000	51	24	11	14	52	31
3歳	4,123,000	33	27	11	14	51	30
4歳	4,061,000	23	32	14	13	41	28
5歳	1,038,000	16	30	14	17	39	28

出典：初期保育と教育プログラムの特色—1995年全国世帯教育調査 (Characteristics of Children's Early Care and Education Programs: Data from the 1995 National Household Education Survey) U.S. Department of Education, Office of Educational Research and Improvement, National Center for Education Statistics, Statistical Analysis Report, June 1998.

親のみによる保育を含め、保育を受けている子どもが、どのような保育を受けているかを示したのが下の表である。この表は、前述のものと保育のタイプ分けが多少違い、また、他の属性別の%も示している。

6歳未満・就学前の子どもの主たるケア (%)

	子どもの数	親のみ	家庭 保育	ベビー シッター	親戚	ヘッド スタート	センター	センター計
計	21,414,000	41	13	3	17	3	23	26
1歳	4,158,000	56	14	3	21	0	6	6
2歳	4,007,000	51	15	3	20	0	10	10
3歳	4,123,000	47	15	4	17	0	17	17
4歳	4,061,000	23	9	2	11	10	44	55
5歳	1,038,000	16	9	2	8	12	52	64
白人		39	15	4	14	2	26	28
黒人		35	9	1	25	8	21	29
ヒスパニック		54	8	2	20	4	11	15
その他		43	9	2	21	4	20	25
35時間以上勤務		13	24	4	27	3	29	32
35時間未満		27	18	4	23	2	26	28
求職中		58	3	0	14	6	18	24
無職		69	3	2	6	3	18	21
北東部		44	9	4	17	3	23	26
中西部		35	12	2	19	4	28	32
南部		39	18	3	17	3	20	23
西部		48	12	4	14	2	20	22
非都市部		39	15	2	18	3	22	26
都市部		41	12	3	17	3	23	27
高卒未満		59	6	1	18	6	10	16
高卒		44	13	2	19	4	19	22
大学		34	15	1	19	2	27	30
大卒以上		29	17	7	11	1	36	36
15000ドル以下		50	8	1	20	7	15	22
15001-25000ドル		50	10	2	17	4	17	21
25001-35000ドル		42	14	2	19	3	20	23
35001-50000ドル		26	18	7	13	1	37	37
50000ドル以上		26	18	7	13	1	37	37

出典：初期保育と教育プログラムの特色—1995年全国世帯教育調査 (Characteristics of Children's Early Care and Education Programs: Data from the 1995 National Household Education Survey) U.S. Department of Education, Office of Educational Research and Improvement, National Center for Education Statistics, Statistical Analysis Report, June 1998.

主たるケアをセンター受けている子どもの割合は、この調査によると、1歳未満では6%、1歳では10%、2歳では17%、3歳では35%、4歳では55%、5歳では64%と、子どもの年齢があがると高くなっている。親以外が主たるケアをやっているのは、収入が3万5千ドル以上で低くなり、大学に行ったことのある親の子どもで低い、35時間以上勤務していると低いなど、大体予想のつくような違いが出ている。

2. 父親の保育について

前節で、親のみによつての保育されている子ども(就学前)が4割を占めており、母親が働いている場合、父親が主たる保育者になっていることが多いことが明らかになった。

ここでは、父親の保育についての詳細を見てみる。14歳までの子どもがいて働いている女性と婚姻関係にある男性は14,800,000人で、うちの2割は、母親が働いている間、子どものケアをしている。また、13%は、主なケア者（他の人やサービスよりも長い時間ケアしている）となっている。

妻が勤めていて、就学前の子どものいる父親は、6,300,000人で、1,300,000人（4人に1人）が、その子どもの主たるケア者であった。当然のことであるが、父親の就労状況によってその割合は、違っている。

父親がケアしている割合は、就労していない父親で57.6%、フルタイム就労で21.7%、パートタイム32.3%、主なケアをしている父親の割合は、就労していない父親の50.2%、フルタイム15.4%、パートタイム27.4%である。これを見ると、フルタイムで働いている父親も、15%が母親が働いている間に子どもの主たるケアを担っている。双方が労働時間を調整しているのであろう。データをみると、父親の職業によってケアをしている割合が大きく違っている。最も多くやっているのが警官、消防員、警備的職業の人で、42%が主たるケア者になっている。管理職、専門職あるいは技術販売職では20%と低い。前者の方が、シフトの関係で就労時間がずれているので、ケアできるのであろう。これらのサービス業のひとは、終業時間が日中でない場合も多い。

また、経済状態にも関わっており、景気が悪いと、失業中の男性も多く、時間的に可能であったり、他のケアサービスに支払いができないため、父親がやっていることもある。収入が少ない家族の方が、父親がやっているのが多い。地域差もある。父親がケアしている割合は、北東で多く、南で少ない。また、郊外では最も少ない。これは、収入にも関連している。さらに、子どもが2人以上いる場合も、父親がケアするケースが多い。（Casper, 1993）。

下記の表は、母親就業中に就学前の子どものケアをしている父親の割合を属性別に示した者である。

母親就業中に就学前の子どもをケアしている父親の割合: 1988 ~1993 (千人単位)

属性	1993		1991		1988		1988		
	父親 の数	ケアしている% ケアして いる	主たる ケア	父親の 数	ケアして いる	主たるケ ア	父親 の数	ケアしている% ケアし ている	主たる ケア
全体	6274	24.8	18.5	5274	30.3	22.4	6536	23.3	16.9
人種・ヒスパニック:									
白人・非ヒスパニック	4908	24.9	18.6	4948	31.0	22.6	5184	24.3	18.3
黒人・非ヒスパニック	475	23.4	16.1	491	24.9	22.1	630	19.2	13.1
ヒスパニック	610	27.2	21.2	521	38.8	28.0	601	21.2	10.7
その他	281	19.8	16.3	314	13.4	11.5	221	15.3	9.9
父親の職業:									
管理・専門	1619	18.1	12.9	1597	23.4	16.4	NA	NA	NA
技術・営業	1189	20.1	15.0	1214	28.9	19.0	NA	NA	NA
サービス	508	42.1	29.0	438	47.3	35.5	NA	NA	NA
その他	2547	22.4	16.6	2542	26.8	19.7	NA	NA	NA
過去一カ月無職	412	57.6	50.2	487	64.1	52.8	NA	NA	NA
父親の復員軍人か:									
復員軍人	1044	29.7	22.4	1092	35.1	27.1	NA	NA	NA
復員軍人でない	5230	23.8	17.8	5183	29.3	21.4	NA	NA	NA
地域:									
北東部	1129	32.5	27.3	1316	36.5	28.1	1117	33.9	27.1
中西部	1778	28.7	18.6	1692	30.9	23.5	1813	25.1	17.5
南部	2094	17.8	13.1	1883	21.3	17.6	2322	19.0	13.7
西部	1274	26.7	19.8	1384	35.9	22.3	1284	19.3	13.1
ニューイングランド:									
大西洋中部	363	38.5	31.5	440	47.3	36.8	366	41.3	32.1
東北中部	766	29.6	25.3	876	23.7	751	30.3	24.7	
西北中部	1210	27.7	19.2	1004	30.7	23.7	1042	27.3	19.9
大西洋南部	568	24.5	17.3	687	31.3	23.3	771	22.1	14.2
東南中部	1130	17.4	11.9	977	23.6	19.9	1165	18.7	13.6
西南中部	369	18.5	12.4	303	15.2	12.6	390	18.4	11.7
マウンテン	594	18.2	15.7	604	20.8	16.3	768	19.8	15.0
太平洋側部	308	36.0	20.7	310	40.9	18.0	328	22.7	16.0
	966	23.7	19.5	1074	34.4	23.5	958	18.1	12.1
都市部:									
市内部	1599	28.2	23.1	1596	35.3	27.6	1781	23.1	18.0
郊外	3266	22.2	16.4	3192	27.8	20.4	3060	23.7	16.8
メトロリタン外	1390	26.9	18.3	1487	30.4	21.3	1695	22.8	16.1
5歳未満の子ども数:									
1人	4929	22.5	16.3	3868	27.7	20.4	5124	21.8	15.7
2人以上	1348	33.1	26.7	1407	39.2	29.6	1411	28.6	21.3
父親の年齢:									
25歳未満	402	32.9	25.6	426	31.8	20.7	447	23.2	17.3
25 ~ 34歳	3347	24.2	18.2	3433	30.1	21.4	3941	24.6	17.4
35歳以上	2526	24.2	17.9	2416	30.4	24.2	2147	20.9	15.9
貧困レベル以下									
貧困レベル以下	286	43.0	38.6	273	49.5	42.1	314	36.9	30.4
貧困レベル以上	5975	23.9	17.7	5965	29.5	21.5	6220	22.8	16.3
家族収入レベル¹:									
\$1500未満	407	45.3	40.3	470	39.1	30.6	622	35.6	30.6
\$1500 ~ \$2999	1760	30.0	24.9	2082	37.4	29.4	2565	26.8	19.3
\$3000 ~ \$4499	1856	26.0	18.3	1910	30.1	22.0	1985	21.3	14.7
\$4500以上	2238	16.1	9.9	1776	20.0	12.6	1363	14.0	9.7
夫の収入レベル²:									
\$1500未満	1619	30.1	25.1	1930	37.0	29.4	2060	26.3	19.9
\$1500 ~ \$2999	2708	24.6	17.5	2665	30.9	21.7	3061	22.6	15.6
\$3000 ~ \$4499	1182	19.7	13.1	985	24.8	17.9	883	20.4	13.4
\$4500以上	651	15.7	10.3	559	12.4	7.5	434	12.6	11.0
援助の有無:									
あり ³	432	32.0	26.1	NA	NA	NA	NA	NA	NA
なし	5842	24.2	18.0	NA	NA	NA	NA	NA	NA

NA データなし¹収入のない父親を除く現在のドル値で表示。²収入のない父親を除く現在のドル値で表示。³AFDC, WIC, フードスタンプなど。注: 結婚していて、妻が働いている男性に限っている。

3. 親の保育施設の情報源

親以外の人の保育を受ける子ども達について、親が何を基準にして保育施設を選んでいるのか、どこから情報を得ているのかをしてみる。

半分以上の親は、友だちから情報を得ていた。子どもが大きい場合は、学校で、というのが多かった。また、就労している母親では、職場で情報を得ている人が多かった。

子どもの保育についてどこから情報を得たか：6歳未満の子どもを持つ親

子どもの年齢	人数	友達	職場	学校	教会	広告	エージェント	紹介所	その他
1歳未満	935,000	63	6	1	5	13	4	1	14
1歳	1,141,000	63	5	2	6	8	8	1	13
2歳	1,436,000	65	4	3	6	10	3	1	14
3歳	2,091,000	60	4	5	6	10	3	3	15
4歳	2,667,000	55	3	10	4	11	3	2	18
5歳	780,000	53	5	12	5	10	1	2	17

出典：初期保育と教育プログラムの特色—1995年全国世帯教育調査 (Characteristics of Children's Early Care and Education Programs: Data from the 1995 National Household Education Survey. U.S. Department of Education, Office of Educational Research and Improvement, National Center for Education Statistics, Statistical Analysis Report, June 1998.

また、親が選択の際、何を重視しているかについては、病児保育があるか、一度に何人の子どもが保育されているか、料金、スタッフが児童発達についてのトレーニングを受けているか、スタッフが英語を主に話すかどうか、家から近いかについては、半分以上の親が大事なポイントである、と回答している。14064人の子どもで、10歳（あるいは3年生）以下の子どもがいる14064人を対象にし、分析には、1995年1月時点で5歳以下の子どもがいる7500人のデータを用いた。

また、世帯収入は、どのタイプの保育を受けるかに大きく関連している。例えば、低収入の場合、ヘッドスタート・プログラム、家庭保育、親戚が多く、デイ・ケアセンターは少ない。

4. 保育費用—その1

次に、保育にかかる費用をみる。1993年のデータであるが、週あたりの保育コストは、一家族につき79ドル（子どもの数に関わらず、1家族で計算）であった。身内にケアを依頼している場合、6分の1が現金でその費用を支払っていた。その他の場合は、8割が現金で支払っていた。ベビーシッターまたはチャイルドケアセンターを利用した親が週あたり65ドル、家庭保育所利用では52ドル、親戚の場合は週42ドル支払っていた。

28%の親が、1ヵ所で2人以上の子どものケアをしていた。複数の子どもがいる場合、支払いも倍になるのではなく、一人の子どもの親は62ドルであるのに対し、2人以上の場合は、一人あたり46ドル支払っており、週16ドル程度安くなっている。家庭保育やベ

ビーシッターは、複数の子どもがいる場合3割以上、センターでは15%程度安くなっている。

1歳以下の子の場合54%が、1～4才の子の場合59%が保育サービスを受けており、コストは、一人あたり、1歳以下で66ドル、それ以上は59ドルであった。白人で非ヒスパニックの子どもについては、ブラックやヒスパニックに比べ、週あたり10ドル多く支払っていた。

週あたりの保育費用：就学前の子ども（1993年秋）

属性	子ども1人あたりの費用 (\$週あたり)						週あたりの時間					
	全体		1人		複数		全体		1人		複数	
	平均	S.E.	平均	S.E.	平均	S.E.	平均	S.E.	平均	S.E.	平均	S.E.
保育のタイプ												
全体	57.47	0.88	61.83	1.10	46.06	1.32	28.15	0.27	27.78	0.32	29.14	0.51
保育所	63.58	1.18	65.42	1.36	55.64	2.25	28.48	0.39	27.71	0.43	31.82	0.88
家庭保育所 ²	51.52	1.41	56.59	1.91	40.13	1.43	28.90	0.50	29.07	0.61	28.52	0.87
自宅で ベビーシッター	68.31	4.94	82.57	8.47	55.70	5.22	23.97	0.96	22.22	1.27	25.52	1.41
親戚 ³	42.04	1.84	48.46	2.67	30.94	1.70	28.28	0.71	28.05	0.88	28.68	1.17
子ども												
全体 ¹	60.17	0.94	63.88	1.13	47.46	1.35	29.51	0.28	28.73	0.33	30.05	0.53
年齢												
1歳未満	66.39	3.15	71.80	3.75	51.29	5.41	30.49	0.76	29.66	0.89	32.80	1.39
1歳	61.35	2.02	64.24	2.46	51.92	2.97	30.64	0.61	30.13	0.69	32.30	1.32
2歳	59.35	1.92	64.00	2.41	48.27	2.87	30.07	0.63	29.10	0.76	31.82	1.13
3歳	56.50	1.82	60.39	2.26	42.15	2.32	28.96	0.56	28.52	0.66	27.56	1.07
4歳	59.43	1.93	61.58	2.17	46.69	2.52	27.73	0.59	26.47	0.68	27.49	1.10
人種:												
白人・非ヒスパニック	61.64	1.06	64.80	1.27	49.80	1.56	29.33	0.30	28.72	0.36	29.19	0.58
黒人・非ヒスパニック	52.72	2.58	59.96	2.90	36.78	4.67	31.65	1.02	30.15	1.13	37.30	2.15
ヒスパニック	51.34	2.77	60.34	3.74	31.45	2.06	29.12	1.00	28.20	1.21	29.96	1.71

¹学校関連でのケアも含む。²親戚以外によるケアする人の家での保育。³父親やきょうだいなどは除く。

Current Population Reports "What Does It Cost to Mind Our Preschoolers" P70-52, September, 1995. Census Bureau (U.S. Department of Commerce).

下記の表では、母親が働き、就学前の子どもがいる家庭のうち、56%は保育料を支払っており、平均週74ドル（毎月の収入の8%）を払っている。複数の子どもがいる家庭は週110ドル、子ども一人の家庭では66ドルである。

年齢の高い母親は、平均よりも14ドル多く払っている。使っていた。収入の割合で見ると、母親が15-24歳の場合は収入の10%、35歳以上の場合は7%かかっている。また、母親の教育レベルによっても、平均額が違っており、高卒未満では60ドル、大学在籍経験ありが70ドル、大学卒93ドルと、教育レベルが高いほど保育にかかる額が多かった。保育料は、貧しい家庭にとって、より経済的な負担となっている。

地域別にみると、子どものケアにお金を払っている家族の割合が多いのは南部だが、実際の額は、北東部85ドル、中西部や南部70ドル、都市部(メトロポリタン)では80ドル、そうでない地域では55ドルと、平均額に差が大きい。

母親が就労している家族の保育費用（就学前の子ども・週あたりコスト）1993年秋
 （過去4ヶ月間家族収入がない家族は除く。）

属性	家族数		支払った			週あたりの労働時間	月収 ²		保育費用が収入を占める割合	
	数	%	(\$)	S.E.	家族 (\$)		母親 (\$)	% ³	S.E.	
全家族	8076	4493	55.6	74.15	1.25	36.52	4254	1839	7.55	0.31
白人・非ヒスパニック	5937	3420	57.6	76.35	1.44	36.09	4491	1889	7.37	0.31
黒人・非ヒスパニック	993	517	52.1	60.89	3.18	38.37	3104	1645	8.50	0.35
ヒスパニック	831	434	52.2	65.69	3.80	36.88	3174	1434	8.97	0.43
婚姻地位										
既婚夫あり	6261	3522	56.3	77.88	1.46	36.67	4842	1951	6.97	0.29
死別離別離婚	868	530	61.1	61.09	3.00	36.81	2157	1610	12.3	0.79
未婚	948	442	46.6	60.07	3.27	35.01	2086	1213	12.5	0.73
母親の年齢:										
15 ~ 24 歳	1372	628	45.8	58.49	2.25	34.46	2495	967	10.2	0.47
25 ~ 34 歳	4732	2701	57.1	72.44	1.50	37.00	4089	1753	7.68	0.36
35 歳以上	1972	1164	59.0	86.56	2.94	36.51	5588	2508	6.71	0.26
就学前の子ども数:										
ひとり	6515	36	56.7	66.48	1.17	36.53	4229	1835	6.81	0.23
2人以上	1561	799	51.2	109.63	3.86	36.49	4371	1853	10.9	0.62
教育レベル										
高卒未満	847	373	44.0	59.70	4.07	35.55	2592	987	9.98	0.52
高卒	2931	1498	51.1	65.07	1.77	37.08	3389	1420	8.32	0.35
大学（1から3年）	2246	1277	56.9	69.51	2.01	35.71	3833	1618	7.86	0.38
大学（4年以上）	2052	1345	65.5	92.67	2.75	36.93	6079	2751	6.61	0.27
就学中か: 就学中	622	369	59.4	78.81	4.18	33.71	3904	1590	8.75	0.36
就学中でない	7454	4124	55.3	73.73	1.31	36.77	4286	1861	7.46	0.31
就労状況:										
フルタイム	5301	3341	63.0	79.00	1.46	41.34	4333	2072	7.90	0.33
パートタイム	2775	1153	41.5	60.11	2.27	22.56	4027	1162	6.47	0.23
労働シフト:										
日中労働	5009	3173	63.4	76.58	1.47	38.55	4358	1940	7.61	0.33
それ以外	3068	1320	43.0	68.32	2.34	31.64	4006	1594	7.39	0.28
家庭の収入（月）:										
\$1200 未満	927	366	39.4	47.29	2.74	32.74	815	748	25.1	7.17
\$1200 ~ \$2999	2667	1295	48.6	60.16	1.86	35.97	2177	1202	12.0	2.32
\$3000 ~ \$4499	2091	1191	56.9	73.10	2.13	37.34	3746	1647	8.46	2.08
\$4500 以上	2391	1642	68.7	91.93	2.37	37.20	7029	2723	5.67	0.25
貧困状況:										
貧困レベル以下	870	319	36.6	49.56	3.47	30.66	1211	696	17.7	1.02
貧困レベル以上	7206	4174	57.9	76.03	1.30	36.97	4487	1926	7.34	0.31
福祉プログラム:										
受けている ⁴	1218	558	45.8	49.76	2.27	32.97	1682	889	12.8	0.87
AFDC	352	154	43.7	46.47	4.27	28.10	1176	736	17.1	1.24
WIC	785	344	43.8	52.11	3.05	34.07	1830	897	12.3	0.90
Food Stamps	708	319	45.0	45.42	3.04	31.71	1349	822	14.6	1.11
受けていない ⁵	6858	3935	57.4	77.61	1.36	37.02	4619	1973	7.28	0.31
地域:										
北東部	1443	658	45.6	85.07	3.38	34.62	4670	2032	7.89	0.34
中西部	2237	1261	56.4	71.47	1.96	36.28	4236	1853	7.31	0.27
南部	2739	1684	61.5	69.17	2.17	37.66	4196	1778	7.14	0.27
西部	1658	890	53.7	79.32	2.98	36.11	4083	1789	8.42	0.42
居住地										
メトロ圏内	6283	3487	55.5	79.72	1.50	36.50	4497	1943	7.68	0.32
市内部	2272	1204	53.0	81.66	2.89	36.75	4036	1855	8.77	0.44
郊外	4010	2283	56.9	78.70	1.71	36.37	4740	1989	7.19	0.27
メトロ圏外	1793	1006	56.1	54.85	1.72	36.59	3414	1478	6.96	0.23

¹ 五歳未満の子どもの保育に何らかの支払いをしている家族の週平均コスト。 ² それらの家族の過去4カ月間の平均月収。 ³ Percent 平均月収に対する月当たり平均の保育費用。 ⁴ General Assistance を受けている 17,000 家族も含む。 ⁵ General Assistance, AFDC, Food Stamps, WIC を受けていない家族。

5. 保育費用—その2

次に、別の調査から、保育の時間あたりのコストや、コスト以外の特徴を見てみる。

親以外のケアを受けている子どもについての保育の現状：1995年

年齢	支払っている 人の割合	時間あたり のコスト	子ども・ スタッフ比	サービスの 数	家から10分 以内	病児保育 あり	トレーニン グ受けた
合計	68%	\$2.15	4.2	1	60	47	58
センター	75	2.37	6.5		57	12	95
ヘッド スタート	13	1.58	6.7	2.5	46	26	97
センター	84	2.39	6.5	0.7	58	26	97
家庭保育所	95	1.84	3.5	-	67	63	4
家での保育	86	3.02	2.0	-	-	78	33
親戚	33	1.63	1.6	-	59	85	18

出典：初期保育と教育プログラムの特色—1995年全国世帯教育調査 (Characteristics of Children's Early Care and Education Programs: Data from the 1995 National Household Education Survey) U.S. Department of Education, Office of Educational Research and Improvement, National Center for Education Statistics, Statistical Analysis Report, June 1998.

親戚の家や家での保育では、比較的多く病児保育が多く行われている。時間あたりのコストは、家での保育（ベビーシッター）が一番高く（\$3.02）、ヘッドスタート以外の保育所（\$2.39）がそれに続く。親戚は一時間\$1.63、家庭保育は\$1.83とコストが低くなっている。このふたつの違いは小さい。

6. 産業データからみた保育サービス

最後に、個人世帯の調査からでなく、サービス産業のセンサスのデータを使って、保育所の現状を示すデータを紹介する。ここでの保育には、産業データには出てこないため、ベビーシッターや小学校との関連でやっているヘッドスタートも入っていない。

産業データにより、保育ビジネスの数。年間給与、職場の人数などが把握でき、さらに、センサス局や current population survey による就学前の子どもを持った就労している母親のデータと照らし合わせることで、保育の需要と供給の関係を見たものである。

まず、保育サービスの数は、1977年には、25000あったものが、1992年には51000あった。税対象になる機関が特に増えている。保育所で雇用されている人数も倍になった。しかし、給与は、平均10161ドルだったのが、9251ドルに減少している。ニューイングランド地域の州では、平均11389ドルで中西部や南部より3000ドル高い。州で見ると、カリフォルニア州、テキサス州、フロリダ州の順でサービスの数が多く、ワイオミング、サウスダコタ州、ハワイで少なかった。1987年から1992年にかけての増加が大きかったのは、中西部で、保育サービスでの雇用者の数も同様に一番増えている。

1992年では、51000の保育施設があり、母親が就労している子どもの数は2千万人であった。地域別で施設と子どもの数の割合をみると、南西部のほうが、需要が満たされていないようである。5歳以下の子どもで母親が勤めている子ども24人につき、保育関係雇用者1人だった。この計算で行くと、ミシガン州、モンタナ州、ハワイでは保育に携わる人が不足しており、コロンビア特別区、オクラホマ州、デラウェア州では、十分である、という結果がでている。(Casper & O'Connell, 1998)。

保育施設、利用、費用の現状については、1997年にUrban Instituteによって実施されたNational Survey of America's Families調査に基づき、アラバマ、カリフォルニア、フロリダ、マサチューセッツ、ミシガン、ミネソタ、ミシシッピ、ニュージャージー、ニューヨーク、テキサス、ワシントン、ウイスコンシンの12州における保育所の利用、コストなどをまとめた報告が2000年3月に公表された。それらのレポートによると、どのタイプが多く利用されているか、コスト、複数の施設の利用状況などは、州によって、かなり異なる。今年度は、アメリカ全体のものに焦点をあてたが、来年度以降は、これらの資料も参考とし、州別の状況もみていく計画である。

IV. 国別研究その2 アメリカ・インディアナ州ラファイエット地域の保育施設

III では、アメリカの保育の全体的なパターンをみてきた。ここでは、中西部インディアナ州のラファイエット市およびウエスト・ラファイエット市において 1999 年 10 月～12 月にかけて行った保育に携わっている人のヒアリングおよび保育施設のアンケート結果をもとに、地域の保育の現状を紹介する。

1. インディアナ州・ラファイエット地域

インディアナ州の人口は 5,043,000 人で、合衆国内で 14 番目に人口が多い州である。都市部に居住する割合が 71.7%、18 歳未満の人口は 25.7%、65 歳以上の人口は 12.5%で、順位で見ると、500 州のおよそ中間である。就業率は 63.8%で全国で 15 番目、農業以外の雇用者（製造業）は 23.4%で、国内で一番たかい。

個人収入や世帯収入も国内の中間程度、貧困層の割合は 9.4%で国内では 10 番目に低い。インディアナ州は、ある意味で、合衆国の平均的な州であり、経済面では、ややよい方であるとみることができる。インディアナ州の失業率は 1998 年で 3.1%、ラファイエット市があるティピカヌー・カウンティでは 2.1%であった(Statistical Abstract of the United States, 1999)。

今回訪問した 2 市は、シカゴから南に 120 マイル、インディアナポリスの 60 マイル北に位置しており、ティピカヌー・カウンティに属している。カウンティ内では 74195 人が働いており、うち 23.3%が製造業、22.2%が農業関係、20.1%が小売業、19.7%が政府関係である (The Greater Lafayette Chamber of Commerce; Indiana Department of Workforce Development, 1999; Community Demographics, 1999a; 1999b)。

ウエスト・ラファイエット市はパデュー大学を中心とした市で、人口は 2 万 7 千人、その隣のラファイエット市の人口は 5 万人である。ラファイエット市には、300 以上の製造会社があり、ロボット、食品、電子器具等、様々な物を製造している。1998 年の 6 月には、雑誌「マネー」で中西部の小規模の市の中で住み易い市のナンバー 2 にランクされた(The Greater Lafayette Chamber of Commerce)。住民の間でも、住み易く、子どもを育てるのによい環境と認識されている (個別インタビュー)。

2. 保育所のアンケート調査

まずラファイエット市、ウエストラファイエット市における保育施設の現状を把握するために、地域の電話帳に登録されている保育関連施設にコンタクトした。リストされている 44 施設から、この 2 市以外の 13 施設を除き、残りの 31 ヶ所に電話で連絡をとり、電話による簡単なアンケートを試みた。3 ヶ所は学童保育のみで短時間の施設であるため除外し、

1カ所はアンケート拒否、3カ所は3回の試みたが担当者不在のため回答を得ることができなかった。最終的に24の施設の担当者と話し、以下の質問をした。

施設の保育時間、一般的に親が子どもを連れてくる時間、迎えに来る時間、迎え時間に遅れた場合の対処法、迎え時間に遅れる頻度、施設内で病気になった子どもの対処法、食事のシステム、現在保育中の子どもの年齢別人数、年齢別の待機人数、スタッフの数（常勤および非常勤）、スタッフの男女比、一人親家庭の割合、親の就労形態、施設が開設された年。（これらの事項についてはIV末のラフィエット保育施設一覧を参照。）

(1) 保育所一覧：時間、人数、費用

認可保育所 (Day Care Center)

Burgett's Child Care Center	6:30-17:30	180人	2歳\$142, 3歳\$112,
Children's Discovery Center	6:00-18:00	90人	2歳\$96, 3~5歳\$55
Ingersoll Child Care Center*	5:45-18:00	80人	乳児\$135, 幼児\$120, 2歳\$105, 3~4歳\$100
Kids' Connection*	6:00-18:00	120人	乳児\$126, 幼児\$111, 2歳\$98, 3~4歳\$82
Kindercare Learning Centers (WL)	6:30-18:00	95人	幼児\$134, 学童\$62
Kindercare Learning Centers (L)	5:30-18:00	90人	幼児\$120, 学童\$79~100
Tippecanoe County Child Care Inc. (地区内での民間チェーン経営)			
Lafayette Day Care	6:00-18:00	?	3~6歳
Tippecanoe Child Care South	6:00-18:00	30人	2~3歳
Tippecanoe Child Care East	6:00-18:00	63人	2歳~就学前
Dennis Burton Child Care*	24 hours	108人	6週~8歳
Sunrise Child Care*	6:30-17:30	?	3週~24ヶ月
Tippecanoe Child Care Downtown*	6:00-18:00	71人	6週~6歳
(親の収入が週\$400以上の場合)			乳児\$134, 幼児\$105, 2歳\$100, 3歳\$83, 学童\$50

家庭保育所 (Family Home Care)

Agape Childcare	7:00-18:00	10人 4ヶ月~6歳 \$90, 3歳以上\$80
Bright Beginning*	6:30-17:30	12人 3ヶ月~9歳 \$80, 就学\$60
Children Court Child Care	6:00-18:00	12人 11ヶ月~6歳 \$90 (00年1月閉所予定)
Daycare Unlimited*	6:30-17:30	11人 3ヶ月~5歳 \$70
King's Kids Home Child Care	7:00-17:30	8人 15ヶ月~5歳 \$80, 3歳 \$65
Small World Child Care*	6:30-17:00	10人 3ヶ月半~5歳 乳児\$100, 14ヶ月以上\$85

教会の保育所 (州に登録)

Bethany Child Care and Preschool	6:00-18:00	58人 3歳~5年生 保育\$80, 幼稚園全日\$60, 就学\$50
Bethel Childcare Ministry*	7:00-17:30	99人 1歳~5年生 1~2歳\$107, 3~5歳\$97, 就学\$87+
Country Lane Baptist Daycare	6:00-18:00	35人 2歳~就学 \$80, パート\$50
Grace United Methodist Readiness and Day Care	6:30-17:30	70人 3~9歳 プリスクール(90人) \$90, 幼稚園以上\$68
Kiddie Kollege	7:00-17:30	55人 3-5歳 \$70
Little Eagles Daycare Ministry*	6:00-18:00	37人 3ヶ月~幼稚園 乳児\$80, 一歳まで\$75, 幼稚園児午前\$45

(*乳児保育あり)

(2) 保育時間

2市の保育施設の保育時間は、平均的な所で 6:00-18:00 で、場所によっては朝 5:30 から、あるいは少し遅めの 6:30 から開いている。Dennis Burton Child Care では、24 時間保育を設けているが、利用者は数人である。迎え時間はたいがいの所で 6 時までと

なっており、どの施設でも迎えに遅れる親はほとんどいず、(前もって登録済みの) 代わりの人が迎えに来ることも、それほど多くない。大きな保育所であっても、地域のニーズに併せて保育時間が決まっている場合もある。たとえば、スバル・イズ自動車工場で働く親が多く利用している Kindercare のラフィエット・サイトでは、工場の一番のシフトが朝6時からということで、5時半から保育を開始している。同じチェーンの保育所であっても、ウエスト・ラフィエットの方は、6時半からである。

(3) 待機リスト

Tippecanoe County Childcare Inc.コーディネーターの Tammey によると、州の認可との関連で一施設で預かることのできる乳児が8人までとなので、この地域で認可されていて乳児を預けることのできる施設は4つに限られている。常に、どこでもいっぱいある。Tippecanoe County 施設のひとつでは、乳幼児合わせての待ち人数が71人にのぼっている。乳児待機リストに載っている期間も、1年なので、その期間内に空きができることはほとんどない。

同じく全部で子ども80人程度を保育している Ingersoll では、1999年11月の段階で、乳児26人が待機リストに載っていた。Kids' Connection ではこれまでの最高で、乳児50人が待っていたこともある、とのことである。38の州に施設を持ち、イギリスにも進出しているという Kindercare の施設では、今の時点で2,3人とのことである。ただし、施設の待機児リストに載っていても、親は他の所を探すため、仮に空きができて、連絡をしても、すでに他に行っている場合も多い(Tippecanoe County ChildCare Inc.コーディネーター)。

家庭保育所の場合、多くは、正式な待機リストは作っておらず、問い合わせがあったら連絡先をメモしておき、空きが出たら電話してみる程度である。印象としては、乳児については、「足りない」というものであった。(参考資料1に某施設の待機申請書をつけた。)

(4) 保育費用

乳児の保育費用は、家庭保育で週70ドルから100ドル(平均85ドル)であるのに対し、デイケアセンターでは120-135ドル(平均114ドル)と高めになっている。家庭保育所では乳児、幼児、2歳については同じ費用であるが、センターでは年齢と共に安くなっている。センターの方がどの年齢でも、3,40ドル割高になっている。週3,40ドルの違いは、年間にすると2080ドルの差になる。

Tippecanoe センターの場合は、収入に応じて費用が調整されるため、上記では、週400ドル以上の家庭対象とした最高金額を記した。教会系の保育所は、センターよりは安くなっているが、家庭保育所よりは高い。

家庭保育所でも、デイケアでも、半数以上のところで、複数の子どもの預けると2人目

からは 10%程度の割引をしている。

(5) 認可のシステム

Child care Center または Child Care Ministry が認可されるためには、1日のセミナーに参加し、申請する。インディアナ州の Family and Social Services Administration により、月に一度、セミナーが行われている。ライセンスは、2年間有効で、そのつど更新していく。州による検査は、飛び込みで行われる。スタッフと子どもの割合は、2歳は5人、3歳10人、4歳12人、5歳15人、6歳以上は20人と決まっている。また、2歳の場合、スタッフの人数に関わらず、一クラスに15人以下に押さえる必要がある。その他、様々な規定があり、それに沿って保育所を運営していくようになっている。Child Care Ministry 教会の施設との違いは、聖書などを使った教育ができることで、設備的にはほとんど変わりがない。

州の認可とは別に、民間団体による、教育機関としての認可システムもある。

National Association for Children's Education や National Early Childhood Education Program などもあり、任意で申請することができる。

(6) フードプログラムについて

家庭保育所でも、デイケアでも、朝食、昼食、朝のおやつ、場合によっては午後のおやつスナックを出しているが、多くの施設で、州のスポンサーの Child and Adult Care Food Program に加入し、低所得の子供達の食費援助を受けている。そのプログラムを使っているジョアンの話によると、次の通りである。

低所得の子どもには、一日あたり朝食 34 セント、お昼 100 セント、おやつ 13 セントの補助がでる。(補助を受けていない親は、一日あたり朝食 26 セント、お昼 95 セント、おやつ 13 セントを払う。) 親は収入などについての書類に記入し、事務所に送る。保育担当者は、月ごとに各子どもの保育所への来所、退所時間、食べた食事の種類などの日誌を送り、該当する子どもの分の小切手が保育担当者のところに送られてくるようになっている。

(記入書類、メニュー例等は参考資料 1-4 参照)。フードプログラムに加入すると、台所のチェックが年に数回行われる。

3. 保育担当者等のヒアリングおよび施設見学

次に、保育に携わっている人たちから聞いた話の概要を紹介する。

(1) 認可保育所:

(a) Tippecanoe County Child Care Inc の傘下にある保育施設 6 カ所のコーディネータには、スタッフの募集などについて話してもらった。スタッフを探すのは、その時々によっていろいろである。4ヶ月前、コックを募集した時は応募ゼロだったが、数週間前の時は

20人も応募してきた。保育スタッフについては、高校のワークプログラムで募集し、よく働いた人はそのまま採用することがある。そうすると、すでに能力がわかっている経験がある人に来てもらえるという利点がある。スタッフには、6年以上いる人も多く、中には、20年継続で務めている人もいる。資格を持っている必要はない。保育施設は、最低賃金のところが多い。

それぞれのセンターで、個別の待機リストをつくって管理している。乳児については、多くのところで1,2年の待機リストがある。パデュー大学の保育所では2年だと聞いている、とのことである。乳児は、スタッフの人数も多く必要で、高くついてしまうので、どこでもスペースが足りないのである。

(b) Tippecanoe Child Care Downtown は、州の規定通りに運営している、という感じで、乳児の部屋には8人分のベビーサークルがきちりと計られたレイアウトで置かれ、見た目には、ちょっと狭い感じであった。年齢別にクラスをわけ、現在の人数は乳児クラス8人、幼児クラス8人、2歳児15人、3歳児20人、4,5歳20人である。担当の先生がプログラムを組む方式をとっている。親は子どもをセンターに入る前に必ず見学に来て、ある程度の時間そこで過ごし、入るかどうかを決めてもらっている。子どもを連れてきて体験入所もできるようになっている。

前勤めていたデイケアでは、ストレスでやめていく人がいたが、ここではそういう人はなく、かなりよい環境だとのことである。遠足として、ダウンタウンや地域のスーパーマーケットへ行くなどの活動も取り入れている。

(c) Wabash Center, Kids Connection, Children's Services

障害を持つ子どもとそうでない子ども達を混合して保育している大規模な施設のディレクターには、施設の説明や地域の保育の問題点についてインタビューし、保育現場の見学をした。

300人以上を雇用しているワバシ・センターの様々な事業の一部として、Kids Connectionをやっている。創造的な保育施設で、異なる能力の子どもでも、同じ教室で学ぶことができるという前提に基づいて、6週間から5歳までの子を保育している。フルタイムの教員とティーチング・アシスタントが27人、先生の補助が7人で合計115人くらいの子供達を保育している。早期教育機関として、National Association for Children's Educationによって認可されており、さらに、現在、別の認可プログラム National Early Childhood Education Program についても、申請を計画しており、調べている。

ここでは、子供達は、児童発達学的なアプローチに基づき、子どもの好奇心をそそり、楽しむことを教え、自主的に活動できるように学ぶ。特別のトレーニングを受けたスタッフがバランスの取れた教育をし、社会性を重視したプログラムを行う。特に、30年以上前からあるイタリアのレジオ方式 (Reggio Emilia approach) を取り入れている。例えば、

何かについて読んだりするよりも、実際にやってみて学ぶ、子ども自身がカリキュラムを作り、実施し、先生は、問題解決や資料収集の手助けをし、質問に答えるなどの役割を担うような活動を行っている。

このセンターでは、親との関わりも重視している。10月にそれぞれの子どもについて、子どものどんなどころを伸ばしたいのか、何を改善していきたいのかを親と話し合う席を設けている。発達テストなどの結果も参考にし、一人一人の子どもに適した「ゴール」を決めていく。しかし、残念なことにそれらの時にこない親もかなり多いという。今年はPTAの集まりへの参加率は6割であった。センターの方は、親が普段の時でも、積極的に保育に関わり、保育所へ顔をだすのを歓迎している。現に、自分の子どもを見学できるような窓もある。

乳児クラスでは、乳児が8人に対し、スタッフ2人で、州の規定通りである。スタッフは、子どもそれぞれについて、何時に何をしたか、何をどの位食べたかなどを記録し、親に渡している。乳児クラスの子供達は、11,12ヶ月くらいになるとその上のクラスに移るが、先生はなるべくかえないように心がけているとのことである。保育所のスタッフと子どもの関わり方については、いろいろな研究結果があるが、あまり担当者が変わらない方がよいと言われている。しかし、まったく変わらないと小学校にいったら戸惑うと思うので、この点については、さらに検討中であるとのことだ。

保育施設のスタッフは、入れ替わりが激しいことが言われているが、国全体の平均の7年よりも勤務年数が長く、これまでを見ても、夫の仕事の都合で3年でやめた人が1人いるだけである。スタッフの給料は、一時間6ドル25セントと安いのが、職場としては、ベネフィットが充実しており、生命保険、障害保険、医療保険などがついている。でも若い人それらのメリットが感じにくいようである。

施設の検査には、何種類もあり、消防署は年に一度、州のプログラムが年に1度、また地域によるキッチン検査が年2度、そして国の早期教育プログラム (National Association for children's education) による検査が3年に一度あるとのことである。ディレクターのクリスタは、自分には子どもがいないが、12年間の経験で自信がつき、親の中には、彼女自身に子どもがいないからわからない、という人もいるが、それに対して、いないけれど一日10時間子どもと一緒にいることはどういうことなのかはわかる、と答えているという。

(d) Ingersoll Childcare Center は、同様にデイ・ケアセンターで、合計80人の子どもを保育している。大学のあるウエスト・ラフィエット市の退役兵のホームの広々とした敷地内にあり、丘の上で、眺めも良く緑に囲まれた環境にある。

先ほど述べたとおり、ここの待機リストは、地域内でも、1, 2位の長さで、乳児 (1